

丁酉 歳旦 越後堀之内連

月園山

之口やんこゝろのしほりも  
老をこゝろの辰子録のふ所 徐々  
湖のほとりへさしきりて 何童

吉歌

先づ海の深白と見んまの門啓 巨鳥  
よふ影のうきまの舟はさしきりて 何童  
けしきのとさしきりてや花乃春 可來  
とけしきりとさしきりては春の如 如竹  
美をたぬとさしきりては春の如 雲若  
明々輝実をさしきりては春の如 怨白  
おちや春とさしきりては春の如 几熊

書初やあはれ舞也 也 序 徐々

さしきりては春と見んまの門啓  
よふ影のうきまの舟はさしきりて  
けしきのとさしきりてや花乃春  
とけしきりとさしきりては春の如

けしきりとさしきりては春の如  
一冊子  
鳥哉

あけけい

書初やあ短冊七 四 序 徐く

さしのかきとんはを  
曳らすのらまはるるの  
つらきもまはるる

ちよき一まの〜年一〜花乃ま 一 毎巻 鳥哉

# 丙申七来り言

まき乃いこ井もるまふ  
海一まき乃電のむすを  
詠

二歩涼空 巨鳥

梅しちをち〜〜年の風流一

〜の朝もゆや中路 次 徐く

今昔もあま〜もあ〜く 口熊

徳のかんをさをも角地 何童

逐あふ〜みま〜鶴の羽をま〜 可来

供養乃幕の風一あ〜く 怨白

船漕〜空〜月浦はま〜 鳥哉

〜も 穂千一ゆ 浩乃 秋 雲歩

# 大尾

夕晴の産り〜融合  
いほ〜の極えにま〜  
も〜

杉重山 徐く

ゆ〜の〜のち〜〜一〜も 中晴回

猫侍